
簡易撮影

聖魔光闇

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

簡易撮影

【Nコード】

N1455P

【作者名】

聖魔光闇

【あらすじ】

なんとなしに自分の寝ているトコロを撮影した

(前書き)

霊体を信じますか？

部屋の入り口に脚立を立ててビデオカメラをセットすると

「よし！」

と、録画ボタンを押し、俺は布団に入った。

事の始まりは、単純だ。子供の運動会の撮影用に充電していた6時間連続撮影可能のバッテリーが、今日の雨で使われず終いになってしまったのだ。

昼間に使おうかとも思ったが、夜、自分が寝ているところを撮影して映ってはいけないモノが映ったら面白いかなと思ったのが、きっかけだった。

そして今、俺は自分の部屋の入り口に脚立に立てたビデオカメラを自分の方向に向け、録画の準備を行うと、録画ボタンを押して布団に入ったのだった。

俺の部屋は六畳一間で角に入り口がある。ちょうど入り口と対角線上の角にテレビが置いてあり、俺はそのテレビの前に布団を敷いて寝ている。

ビデオカメラで録画を行っているせいか、何か視線を感じるような気がして、なかなか眠れない。しかし、人間というモノはすごいモノで、目を閉じじっとしていると、やがて寝てしまうのだった。

しかし、今日はヤケに眠り難かった。夜中に何度も目を覚まし、その度にもう一度眠り直した。

朝、目が覚めた俺はビデオに映った映像を確認する事にした。ワクワク感と、ハラハラ感が交錯していたが、少し早送りで、映像の確認を行った。

ビデオの映像を見始めて俺は背筋が凍りつくような感覚になった。しかし、映像から目が離せなかった。最後まで映像を確認した俺は、

冷や汗をバカみたいにかいて、その映像を即消去した。

俺は今見たものを忘れる事にした。いや、忘れないと頭が狂ってしまいそうだった。

映像には、テレビに反射して写るビデオカメラの横に裸足で白い服というか布をまとった女が、じっとバッテリーが切れるまで、俺を見ていたのだった……。

「お被い………に………行かなくっちゃ………」

俺はフラフラと部屋を出て行った。

(後書き)

短過ぎた？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1455p/>

簡易撮影

2010年11月27日16時16分発行